

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293200182		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら新浦安(楓ユニット)		
所在地	千葉県浦安市明海2-12-1		
自己評価作成日	令和4年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座6-13-9 GIRAC GINZA8階bizcube		
訪問調査日	令和4年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ユニットが1フロアに両隣で位置していることから、利用者も自由に行き来でき、職員もユニットの垣根を越えて協力し合いながらケアに入ることができています。利用者の行動を止めないという視点も大事に互いのユニットで連携を取りながら全員で見守りを行っている。同時にユニット間の行き来がしやすいことから合同のイベントや食事会なども企画しやすく、それによる利用者同士の交流も生まれている。また、複合施設の強みとしてうららで行われる楽器のコンサートやパフォーマンス・夏祭りなどにも参加し様々な体験をすることができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和4年度は職員一人一人の自主性を高めていくために、「まず私から」をホームのスローガンに掲げて職員一人一人の意識を高めて行けるように努めています。利用者の自立度が高いというメリットを生かして、各ユニット利用者の活動性を高めて行けるように努めています。職員の退職も少ないこともあり、利用者とも馴染みの関係を構築できています。ホームの強みとなっています。馴染みの関係が行き過ぎて馴れ合いの関係にはならないように努めています。施設内勉強会を中心に職員の育成を進め、さらなるケアの質を高めて行けるように取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼にて企業理念の唱和を行っている。また、スターツイズムカレンダーの読み上げを行い、それを踏まえてのユニットでの支援目標を発表し、共有している。	昨年度の反省を踏まえて職員一人一人の自主性を高めるために「まず私から」を令和4年度のホームのスローガンに掲げています。全体やユニット会議を通して振り返る機会を設けて職員の意識を高めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス流行により、地域との交流はほとんどできていないため、今後の課題となっている。	コロナ禍のため、地域行事への参加を通して地域の方と交流を深めることは難しいですが、10月のハロウィンのイベント時には系列の保育園児による歌の披露を予定しており、少しずつ交流を再開していく予定としています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍前は管理者が小学校を訪問し「認知症サポーター養成講座」を開催していましたが、今年度はコロナ禍の影響もあり地域貢献の活動とまでは至っていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス流行により、今年度対面式での運営推進会議については中止として書面開催で実施しています。	運営推進会議はコロナ禍のため書面開催という形式をとっています。運営状況のほか研修やイベントなどの取り組みを書面に残し、行政担当者へ送付しています。地域関係機関等からの意見等の収集を今後の課題としています。	書面開催で行った運営推進会議の議事録は自治会長や民生委員、地域包括支援センターなど地域の関係者にも幅広く送付し、多くの意見を収集できると良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上相談が必要なケースが生じた際には担当課へ連絡を入れて必要な指示を仰いでいます。	運営上相談事が生じた際には行政の担当課へ連絡を入れて指示を仰いでいます。新型コロナウイルスへ感染した際には市の担当課にも逐一連絡を入れて状況を報告し、必要な指示を仰ぐ等、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カードキーのため、玄関は施錠しているが、利用者様から外に出たいという訴えや行為が見られた場合はその奥の気持ちを探るよう支援している。身体拘束についての研修を年3回実施している。	身体拘束をしないケアの実践に向けて運営推進会議に合わせて2ヶ月毎、身体拘束廃止委員会を全体会議の中で実施し職員全体で不適切ケアの発生が無い、センサーの使用状況も合わせて確認しています。身体拘束廃止に向けた研修もホーム内で実施しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会をスタッフ主催で実施している。		

グループホームきらら新浦安(楓ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての直接的な学ぶ機会は未だ実施できていないが、個々で研修で学んできたことは研修参加報告書を提出してもらい、所見などを記載してもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点がないか都度確認しながら契約を行っている。また契約後もいつでも疑問点を解消できる環境を作っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来設時いつでも話せる雰囲気をつくり、ご家族様からの意見や要望、施設側からの利用者様の気になることなど細かく共有できている。	家族からの意見や要望等については面会に訪れた際に直接確認するほか、電話やメールでの連絡時に確認しています。利用者からの要望等は日常会話を通して確認して、日常生活の中で反映できるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	書面による開催	ホーム長やユニットリーダーが中心となり、職員と面談を行う中で意見や要望などを確認しています。また面談以外にも日常会話やユニット会議を通して意見等を確認して日々の支援や業務に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与については会社規定の査定シートを使用し、年2回実施、面談を行っている。また目標振り返りシートを用い、各自の振り返りと課題をみつけ、リーダー・ホーム長と共有している。リーダーは常に職員とのコミュニケーションをとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の業務・声かけを把握し、随時指導している。社内研修にはレベルに合わせて参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の会議への参加や職員への社内イベントの周知を行い、職場以外の人との交流や情報交換ができる場を提供している。		

グループホームきらら新浦安(楓ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人面談を行い、不安なことや生活歴の把握を行っている。表情などからも気持ちや要望を感じ取れるよう、常に職員間での連携を図り、アセスメントを取りながら共有して支援に当たっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者に一本化し、家族との連絡を行っている。職員が連絡事項などや相談を受けた際は、すぐに管理者への情報共有を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前評価シートやアセスメントを取りながら支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは行って頂きながら、頂きながら利用者様同士のコミュニケーションも取れるよう、職員が支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも出来る限り協力を仰ぎ、施設に預けつきりにならないよう連携を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙などきたら必ず本人に渡し、居室などに飾り、関係を継続できるよう支援している。	馴染みの人や場所との関係継続に向けた支援では、電話や手紙のやり取りを通して知人と連絡を取ったり、利用者ご自身の携帯電話で直接連絡を取るケースもあり、これまでの関係性を維持できるようにサポートしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自分からあまり話さない方の隣には、お話し好きな方の隣に座って頂くなどの食席にしている。 また、話が伝わりにくい方には会話が広がるようにスタッフが間に入り対応している。		

グループホームきらら新浦安(楓ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時はサマリーを作成している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で、本人からの訴えがあった場合は共有している。また、認知機能の低下などで言葉にすることが難しい方は、表情や仕草から気持ちを感じ取ることが出来るよう支援する。	アセスメントで抽出した課題を踏まえて担当者会議を開催し、職員や家族、主治医等の意見を総合的に踏まえてケアプランを作成し利用者本人及び家族の同意を受領しています。毎月モニタリングを行い、目標の達成度合いを確認しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前利用されていたサービス事業者や病院との連携を図り、医療情報や入居前情報シートを全職員が目を通し、情報の把握をしている。また新規入居者様情報共有シートを作成し、都度こまかな情報を共有できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや介護記録、ユニット日誌での情報共有を行っている。またD3シートを活用し、食事量、水分量、活動、睡眠などを記入し、一人一人に合った過ごし方を把握しながら支援につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを持ち回りにし、全職員が介護計画について主体的に取り組めるような仕組みづくりを行っている。また介護計画の説明は本人を交えながら本人と家族の意見を聞き、反映している。	ケアプランの作成および更新時にはユニット会議の中で担当者会議を開催し、職員からの意見のほか、利用者本人や家族、主治医の意見も総合的に踏まえてケアプランを作成しています。ケアプランに掲げた目標は毎月のモニタリングで利用者の満足度を確認しています。	今後に向けては事業継続計画(BCP)の必須化に向け、ホーム独自の事業継続計画の作成に努め、災害発生後にどのようにホームを運営していくかについても明確にできると良いと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には実施の有無だけでなく、状況も記入するよう共有し、実践している。また介護記録やユニット日誌は出勤時必ず目を通し、情報の把握、共有をしている。計画作成担当者は介護記録を確認し、計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意見、ニーズを確認し、他サービス事業所との連携を図っている。		

グループホームきらら新浦安(楓ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺の活用できる資源を職員間で共有し合い、各利用者の体力や趣向に合わせて活用できるような行事の計画・生活への取り入れ方を随時模索している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所のかかりつけ医に移行するかの確認を都度行っている。事業所のかかりつけ医は各ユニット月2回の往診にて身体状況の把握を行い、特変時は24時間連絡できる状態の確保、臨時往診などでの対応をしている。外部のかかりつけ医を継続している利用者様においては、ご家族を通して情報共有を行っている。	提携先の医院とは定期的な往診を通しての連携体制のほか、24時間連絡が取れる体制があり緊急時にも迅速な対応を可能としています。週に一度訪問看護の看護師も来訪され、利用者の健康状態を定期的に確認しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師とは帳票と口頭での申し送りにて情報共有をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はお見舞いに行き、直接状態の把握を行っている。また病院関係者とも見舞い時や電話などで情報の共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームとして出来ることを十分に説明し、都度家族と話し合いながら、医療との連携を図っていく。	重度化や終末期に向けた方針については利用契約時に各指針に基づき詳細を説明し、説明後同意を受領しています。終末期を迎えた際には主治医から直接、今後の支援方針を家族の方に伝えて頂き、終末期の方針についてホーム所定の同意書を交わしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応の勉強会を行い、ユニットファイルに救急対応のまとめと各利用者様の医療情報提供シートをはさんでいる。有事の際はすぐに動けるよう周知し、実際の救急対応の際も職員間で連携して、対応できた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施し、勉強会も行っている。複合施設のため、他事業所との連携も図っている。地域とは地域ケア会議や推進会議にて関係を構築しているが、実践的な内容についてはこれから話し合っていく必要がある。	併設のデイサービスや有料老人ホームと合同での避難訓練を年2回計画し実施しています。災害時には併設施設等と連携して対応できる強みがあります。災害に備えた備蓄品もホーム内に保管しており、消費期限等も定期的に確認しています。	

グループホームきらら新浦安(楓ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩という意識を持ち、利用者様と関わっている。また、不適切な言葉かけに気づいたときは、職員からリーダー・管理者に報告を上げ、都度注意している。	利用者に対して適切な対応が図れているかについては、ユニット会議や2ヶ月毎の身体拘束適正化委員会の中で適宜確認しています。居室のドアは利用者不在時には閉めることなども徹底しプライバシーに配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話する時間をもつよう一人一人の職員が努めている。言葉だけではなく、表情や仕草から気持ちを読みとれるよう関わっている。また、本音で話してもらえる関係作りに各職員が努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の意向を汲んで支援にあたるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服を選べるよう支援したり、起床時の洗顔や整髪、化粧など、利用者様に合わせた支援を行っている。また、昔から長髪になじみのある利用者様は結髪を介助するなど、一人一人に合わせた支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材購入、調理、盛り付け、配膳と、出来る範囲で主体的に関われるよう支援している。また、できること・できないことを把握し、出来ることの継続的な参加を促している。	業者から食材を取り入れるケースと買い物で食材を調達するケースに分け日々の食事を作っています。利用者の関りも大切にしており、野菜を切って頂いたり盛り付けなども関わっています。イベントでの行事食やおやつ作りなども通して食の楽しみにつなげています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	D3シートを活用し、食事量・水分量の把握を行っている。また、好みのものや嫌いなものを本人や家族から情報収集を行い、支援に取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の能力に応じ、声かけや見守り、介助を行っている。磨き残しのチェックや、義歯の夜間消毒の声かけ・実施など、どこに支援が必要化の把握をし、共有している。		

グループホームきらら新浦安(楓ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、一人一人に合わせたトイレの声かけや誘導を行っている。また、夜間は眠りスキャンを活用し、安眠を妨げないように留意しながら排泄介助を行っている。	利用者一人ひとりの排泄状況については専用の記録システムに入力し、タブレット端末を通してデータを職員間で共有できる仕組みとしています。排泄はトイレを基本とし、定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるように対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況の把握はD3シートと申し送りにて共有している。起床時の冷牛乳の提供や、毎朝のヨーグルトの提供、歩行の時間を設けるなど支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴が行えるよう入浴表にて把握している。気分や疲れで入浴拒否があった場合は別日にて対応しているが、衛生保持ができるよう声かけの工夫を行っている。	利用者の体調やペースなども考慮して週2回入浴できるように支援しています。入浴拒否者に対しては声のかけ方を工夫して、無理強いのないように努め、利用者のペースで安全に気持ち良く入浴して頂けるように努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週間や身体状況によって、適宜午睡を取り入れている。夜間安眠できるよう、日中の活動を多くしたり、夕方からは眠りに向かって落ち着いた気持ちで過ごせるよう、時間に応じた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルにて服薬情報を共有している。また、薬の変更があった際には口頭での申し送り、ユニットでの共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動の参加による役割の構築や、買い物・散歩への同行、歌・しりとり・折り紙・工作などの好きなことでの関わりをもてるよう努めている。また行事のときは事前に声かけを行い準備から楽しめるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	人員配置により、すべての外出希望を受け入れることは難しいが、少しの時間でも外に出られるよう努めている。また行事や、誕生日の個別レクでは行事係が中心となり、計画・実施をしている。長時間の散歩希望のある利用者様はご家族にも協力をお願いし、実施している。	天候や気候の良い日にはホーム周辺の散歩にお連れして戸外に出かけられる機会を少しずつ増やしています。ホームで外出する機会は限られていますが、家族との外出も許容し少しずつ活動の幅を広げています。	

グループホームきらら新浦安(楓ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持ちたい利用者様はご家族の了承を得て、自己責任での保有を行っている。買い物希望時は職員や家族が同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用できる利用者様は居室にて電話している。またご家族来設時に親戚や友人との電話をしている方もいる。手紙はご本人に渡し、必要に応じて読み上げなどを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人の意思を尊重しながら、快適な温度に保てるよう支援している。またCDの音やTVの内容で不快に感じる方もいるため、心地よく過ごせる環境を常に意識している。	利用者が集うリビングルームは装飾品の掲示により季節感を感じられるように工夫しています。掃除も日々徹底しており、感染対策として換気もこまめに行っています。玄関先には手指消毒器と検温センサーを設置し感染症予防対策を徹底しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で静かに過ごしたい人は一人で過ごせる時間を支援し、皆で過ごしたい人はリビングで会話しやすい環境を整えている。ユニットが別でもお互いに居室を行き来し、会話を楽しんでいる利用者様もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのあるものを持ち込んでいただいている。また安全に考慮し、ご本人と一緒に居室環境を整えている。汚染衣類の回収など、衛生維持にも努めている。	居室内でも居心地良く過ごせるように、これまで使い慣れた愛用品や馴染みの物の持ち込みを可能としています。居室掃除も定期的を実施し、衛生面も保たれています。換気についてもこまめに行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	電気の位置やトイレの表示を、使用する利用者様にわかりやすいよう表示をすることによって、自身で電気をつけられたり、夜起きて一人でトイレに行けたりと、出来ることを継続できるよう支援している。		